

巻頭言



社団法人
日本照明委員会
会長 瀧田 隆義

JLEDS 会員企業の皆様には、「(社) 日本照明委員会 (JCIE)」に馴染みがない方も多いのではないかと思いますので、JCIE とはどのような組織で、どのような活動をしているのかをご紹介します。

JCIE は、照明の利用技術に関する国際標準の策定機関である国際照明委員会 (CIE) を構成する各国委員会 (National Committee、現在 34 カ国) の一つです。日本電球工業会の設立 (昭和 8 年、1933 年) よりも古い大正 11 年 (1922 年) に設立され、今年で 88 年を迎えました。

CIE の最も大きな成果は、皆様が今では当たり前のように使っている光の量や強さ、色の定義である「ルーメン、カンデラ、色度 x, y 」など、光や色の基本量に関わる $V(\lambda)$ (標準視感度)、XYZ 表色系を定めたことがあげられます。JCIE は CIE の各技術部会に対応した 7 つの部会 (視覚・色、測光・測色・放射測定、屋内照明、交通照明、屋外照明、光生物学・光化学、画像技術) で構成され、国際標準の基盤となる基礎研究から技術開発、国際標準提案までを行っています。CIE で標準化された規格は、国際標準のルールで、そのまま ISO に持ち上げられ、国際標準化 (ISO 標準) されることになっていますので、CIE/JCIE の活動が光・色の国際標準化に対して、大変重要であることをぜひ知って頂きたいと思えます。

現在、世界の照明は約 60 年サイクルの変革期を迎え、白熱電球や蛍光灯などの既存光源から新光源 LED 照明への移行が急速に進んでいます。特に国際的な地球温暖化防止を背景に世界各国は近い

将来に白熱電球を廃止することを宣言し、日本は 2012 年までに全ての白熱電球を他の高効率光源に置き換えることを決めています。

そのような背景のもと、CIE は 2007 年に北京で開催した CIE 北京大会において、CIE 会長が「CIE による地球温暖化防止・省エネ宣言」を行い、照明の高効率利用に向けた活動推進を訴え、CIE は地球温暖化防止・省エネに関わる国際標準化活動を優先的に推進することを公表しました。

LED 照明が健全に普及していくためには、品質の劣る商品が市場に出回って消費者の信頼を失うことを避け、消費者がエネルギー効率 (lm/W) や光の質について正しく理解し、多くの商品の中から高い品質のものを正しく選択できるようにして、既存光源の照明からより高効率の LED 照明への置き換えを促進する必要があります。そのためには、公平かつ正確に測定できる測光技術や LED 照明の評価技術が確立されて、国際標準化されなければなりません。

LED 照明に関する国際標準化が進むことにより、健全で安心・安全・快適な市場形成につながります。また、我が国の高品質な製品が世界市場でも正当に評価されるようになれば、我が国の照明産業の国際競争力強化にも繋がります。

さらに LED 照明の性能向上とその省エネ性を公的な規格でもって正確にアピールすることで、LED 照明の普及を大幅に加速でき、2020 年に照明からの CO2 排出量を 1000 万トン以上削減するなど、温室効果ガス削減に大きく貢献することもできるようになります。

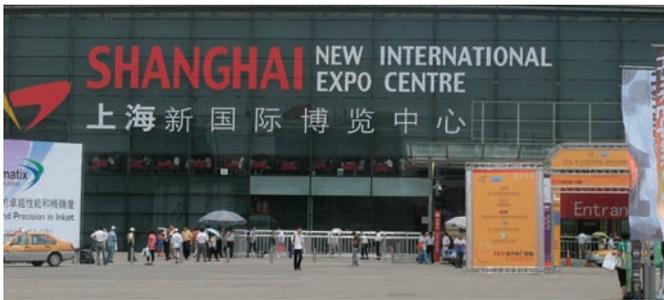
以上のような LED 照明の国際標準化を戦略的に進めるためには、日本電球工業会、日本照明器具工業会、日本照明委員会、照明学会、JLEDSをはじめ、産業総合技術研究所や電気安全環境研究所 (JET) など照明産業、および標準化、測定試験に関わる多くの機関が連携していくことが特に重要であると思えます。

最後になりましたが、JLEDS および JLEDS 会員企業の皆様の益々のご発展を祈念申し上げます。

企画運営委員会の主な活動

【中国上海 LED 産業技術展 2010 の報告】

7月7日から9日までの3日間に渡り、上海新国際展覽センターにてLED産業技術展が開催された。今年で第4回のLED展であるが、昨年より広告技術展との併催で規模を拡大して開催されている。全体で340社を超える出展があるが、LED展として大型ディスプレイや広告看板照明なども多数出展しており照明



<上海新国際博覧センター>



<半導体照明代替灯具コンテスト>



<展示場風景>



<LED主照明>

数多く展示されており蛍光灯代替式の方向が鮮明に示されていた。昨年に比べクリアレンズタイプが多く、より実用に近づく明るさを確保しようという意欲が感じられた。またコンテストにもあったように面発光の主照明の展示も多数見受けられた。中国の街路灯から室内照明というLED方向性メッセージを感じられる展示であった。(委員長 山中 侑)

【LED EXPO & OLED EXPO 2010 (韓国) の報告】

韓国で開催されたLED照明の展示会と講演会は、6月20日から24日まで開催されました。8カ国、261社が参加し、来場者は、21,000人と盛大なうちに終わりました。3日間のセミナーでは、LEDおよびOLEDそれぞれ活発な発表、討議がなされました。一方、展



<ソウル KINTEX>



<展示会場>



<街路灯展示>

示会場では、LED照明で非常に多くの韓国企業が出展しておりOLEDは見つけるのが大変なくらいで

ほとんど展示はなかった。日本からは会員企業の「サンユレック」、「大塚電子」、「テクノログ」、「日本経済新聞社」、「ICS コンベンション」の5社とJLEDSコーナーでした。昨年同様に電球型LED、直管蛍光灯型LEDが多数展示されていた中、今年度は展示に変化が見られた。一つは色温度の違いで見え方がどう違うかを見せた展示、もう一つはLED照明でブースの雰囲気/照明効果を見せる展示が複数のブースで見られたことである。韓国もLED照明製品から見せ方などのソフトの提案へとステージが変わってきており、韓国企業の実用化への積極的な取り組み・エネルギーを感じさせられたEXPOでした。(委員長 山中 侑)

広報委員会の主な活動

【JLEDS シンポジウム開催】



<シンポジウム全景>



<太田理事長の開会挨拶>

9月7日、東京JR大井町駅前にある「きゅりあん」(品川区立総合区民会館)大ホールで「New Decade for LED Lighting LED照明 飛躍の幕開け」と題して「JLEDS シンポジウム 2010」を開催しました。

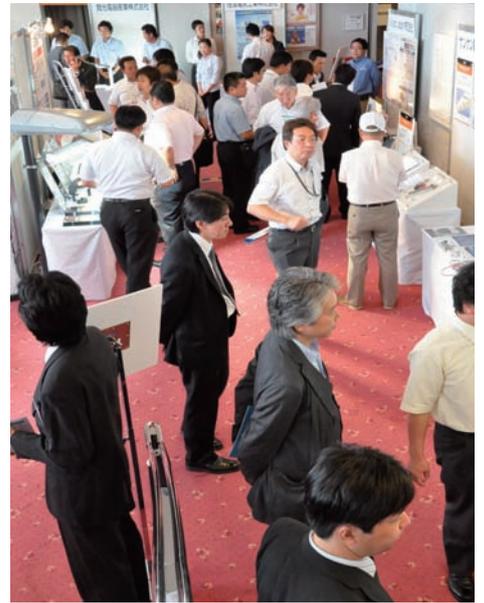
今年は、題名にもあるとおり、これからの10年間のLED照明の幕開けの年として位置づけ、LED関連の方々だけでなく、設計、デザイン、建築業界などに携わるの方々、並びに次世代を担う学生など、幅広い層の方に来ていただきたいとの思いで、シンポジウムWGメンバーが約1年を掛けて企画したものです。講演は基調講演とテーマ講演、パネルディスカッションの三部構成とし、国の施策、環境配慮への思い、LED照明の現状、LED化の実例など幅広い内容としました。また、会場のホワイエを利用した会員企業26社の商品展示も行いました。基調講演1は経済産業省 吉本豊課長から「LED照明の成長戦略」と題した講演をいただき、わが国経済の成長産業の一つとして省エネルギー効果の高いLEDの技術開発の促進や製品の普及について、政府の取り組みや今

後の成長戦略を知ることができました。基調講演2は、テレビでおなじみの東京大学名誉教授 月尾嘉男氏が「環境問題の解決に貢献するLED照明技術」とし



<吉本経済産業省情報通信機器課長の基調講演>

て、今問題になっている環境についての詳細な話から、LED照明にしたときの有効性についてなど幅広く論じていただきました。テーマ講演は、(株)野村総合研究所主任コンサルタント 前原孝章氏の「LED照明市場動向と今後の課題」により、白色LEDの照明への適用が本格化しつつある現状とともに潜在する課題などに言及いただきました。そして(有)シリウスライティングオフィス代表 戸恒浩人氏の「東京スカイツリーにおけるLED化への挑戦」では、建設中のスカイツリーを彩る照明設計思想やLEDだから成しえる照明効果についてお話いただきました。パネルディスカッションでは、シンポジウムの主題に関して、好本恵氏(アナウンサー)の司会により、戸恒浩人氏(前述)、宮崎裕雄氏(清水建設(株))、神谷利徳氏((株)神谷デザイン事務所)、戸井田園子氏(All About 家電ガイド)、安岡悦章氏(大光電気(株))の5人のパネリストが、あかりとの係わりをきっかけに、LED照明との関連やあかりへの思いなどを語って戴きました。10年後のLED照明は取り立ててLED照明と言わなくても自然に使われている世の中になるのではないかと一致した思いが披露されました。なお、シンポジウムには、定員の600名を超える733名の方々がご参加くださり、展示会ともども大変盛況な会となりました。(WGリーダー 西尾 章)



<展示会場>

【霞が関子ども見学デーに参画】

8月18-19日の二日間、霞ヶ関の経済産業省の会議室などを開放して、「霞ヶ関子ども見学デー」が開催されました。JLEDSは種々の団体とともに参画し、「発光戦隊誕生の秘密」をパソコンで見せLED照明の仕組みを紹介したり、LED電球の点灯や手回し発電機セットでの実験をおこないました。親子で



<子ども見学ツアー>

LEDの仕組みを知り、電球とLEDを手回し発電機で点灯するときその回す力の違いに驚くなど、省エネへの関心を持っていただくことができました。会員企業の方々の応援も得て参画した2日間でしたが、来場された親子でいっぱいになり熱気で汗だくになりつつも当協議会の幅広い活動の一端を紹介することができました。

(委員長 小宮章利)

【第1回会員研修会を実施】

7月5日、JLEDS 会員研修会をパナソニック電工(株) 汐留ホールをお借りして行ない、145名の方々に参加いただきました。講演内容は、特許庁の北川氏、塚本氏に「LED照明の国内外の出願動向」、「分譲マンションにおけるLED照明の採用ニーズ」を三井不動産レジデンシャル(株) 町田氏に講演戴きました。さらに、JLEDS 技術・標準化推進委員会の分科会より、「LED照明設計施工ガイドラインの作成」を、サンケン電気(株) 佐野氏に講演戴きました。

特許から施工のガイドライン、実施例など一連の関連

した内容の研修アイテムであり、有意義な時を得ることができました。太田新理事長(豊田合成(株))からは、質疑応答の際に貴重なご意見を頂戴いたしました。なお、今回から会員企業への還元の意味も込めて、参加費無料としましたが、気軽に参加できたとの反応を戴きました。

講演終了後は恒例の新規会員企業紹介(10社)、そして情報交換会を実施し、相互の親睦がなされました。

(WGリーダー 種市 章)



<町田氏の講演>

技術・標準化推進委員会の主な活動

【技術・標準化推進委員会セミナーを開催】

8月31日、(財)電気安全環境研究所・横浜



<渡邊グループマネージャーの講演> 安全基準につい

事業所 渡邊グループマネージャーを講師にお迎えし、「LED照明の安全性」(電気用品安全法・技術基準の概要～照明器具等に適用される安全基準につい

て～)をテーマとするセミナーを開催しました。45名の参加者を得て、熱心な意見交換ができました。

(委員長 小西勝之)

【「LED照明ハンドブック」Web版の改訂】

LED照明ハンドブックのWeb版を改訂し、7/26にJLEDS ホームページにアップ・ロードしました。ぜひご覧下さい。最新の技術・規格や、情報を盛り込んでおります。

(委員長 小西勝之)

▶ LED照明ハンドブック改訂版

会員企業第一線技術者が熱意を込めて執筆。最新内容に改訂。

事務局からの報告

【事業活動報告】

- '10.07.05 第1回会員研修会(東京)
- '10.07.07 広報委員会
- '10.07.15 技術・標準化推進委員会
- '10.07.07-10 上海LED産業技術展
- '10.08.05 企画運営委員会

'10.08.18-19 霞が関子ども見学デー

'10.09.07 JLEDS シンポジウム

'10.09.15 広報委員会

'10.09.16 技術・標準化推進委員会

'10.09.29-10.01 LED JAPAN

以上の他、各委員会の分科会が随時開催されています。

Japan LED Association

JLEDS NEWS / 第8号

内容に関するご意見、ご質問はJLEDS事務局までお寄せください。
本書の内容を無断で複写・複製・転載することを禁じます。

発行 2010年10月1日

発行人 小紫正樹

発行所 特定非営利活動法人LED照明推進協議会
〒105-0003 東京都港区西新橋一丁目5番11号

第11 東洋海事ビル6階

TEL (03)3592-1382 (代) / FAX (03)3592-1285

URL <http://www.led.or.jp/>

E-mail info@led.or.jp

<JLEDS 機関誌編集委員会委員名簿(順不同、敬称略)>

大嶋(大塚電子)、河本(テクノログ)、小西(シャープ)、小宮(東芝ライテック)、*小紫(専務)、清水(シャープ)、下出(サンユレック)、中村(住友電工)、堀尾(スタンレー電気)、安岡(大光電機)、山中(豊田合成)、立(シャープ)。(※:編集委員長)